

附属小学校をよりよくするための具体案を参考にした 来年度の教育活動予定

1. 学習について

社会に開かれた教育課程の実現に向けて、体験学習を多く取り入れてまいります。

「外の世界で働く方々と触れ合う機会を作ってくくださったこと、とても感謝している。社会で働く方々からの話を聞くことで、子どもの世界がぐんと広がったように思う」「今後も、持続可能な世界の実現に向けて、地域の課題、世界の課題に本気で挑戦している人々と出会う機会があれば、先が見えにくいこれからの社会を生きていく子ども達にとって心の糧になるのではないか」といった、体験活動を多く取り入れた学習について評価をいただいております。

今後とも、「実際の経験から、多くを学ばせていただいたことから、社会の一員として、地域のために貢献することをさらに学んでいってほしい」といった願いに応えられるよう、新学習指導要領で求められている資質・能力を育成するための社会に開かれた教育課程の実現に向けて努力してまいります。

「自ら学び自ら考える力」を育てる探究型学習の充実を図ってまいります。

生活科やタイム（総合的な学習の時間）を軸とした探究型学習について、「一生懸命考えたり、悩んだりしながら仲間と意見をぶつけ合うことに慣れてほしい。是非、深く考え話し合う機会を続けてほしい」「学習していく中でうまれた疑問点を自分達で調べ、まとめて、プレゼンテーションにつなげるという一連の作業は、今後の人生の中で非常に役立つ経験だったと思う」といった評価をいただいております。

今後、OB・OG、保護者の方々にもご協力をいただきながら、また、山形大学とも連携を図りながら、郷土教育やキャリア教育、国際理解教育、福祉教育、環境教育等につなげていきたいと思っております。その際、体験学習を重視しながらも、タブレットやインターネット（スカイプ、ズーム等）の活用などを通して、情報教育にも力を入れてまいります。

2. 学校行事について

みのりSF（スポーツフェスティバル）は教育実習期間、暑い時期を避けて実施いたします。

「年々暑さがきびしくなり、今年は特に児童の体調が心配になる程の暑さだった」「炎天下で応援していて、我々も熱中症になりそうだった」「昨今の異常気象を考慮して来年の予定を組んでいただくと安心して参加できる」といったご意見をたくさんいただきました。

この時期、多くの教育実習生に頼って、テントを設営してもらったり、競技の審判をしてもらったりしておりましたが、教育実習時は落ち着いて学習に取り組み、みのりSFは少しでも暑さが和らぐ時期に移動したいと考えました。

しかし、9月下旬は中学校の新人戦と重なる可能性があります。また、NHK合唱コンクール東北大会とも重ならないように設定しなくてはなりません。様々な条件をクリアできる日を検討した結果、10月上旬の前期懇談資料配付の方法を見直しながら、来年度は10月3日（土）の開催とし、予備日を4日（日）とさせていただくことにしました。

また、「チャレンジ記録会は運動会（SF）の中で一緒にはダメなのか」といったみのりスポーツフェスティバルとチャレンジ記録会を運動会に一本化し、徒競走や樽太鼓の復活を望む意見もいただいております。本校の特色であるみのり班活動で育ててきた1組系、2組系、3組系の絆を、スポーツを通してさらに深める目的のために行うものですので、団体種目による勝負がメインとなります。

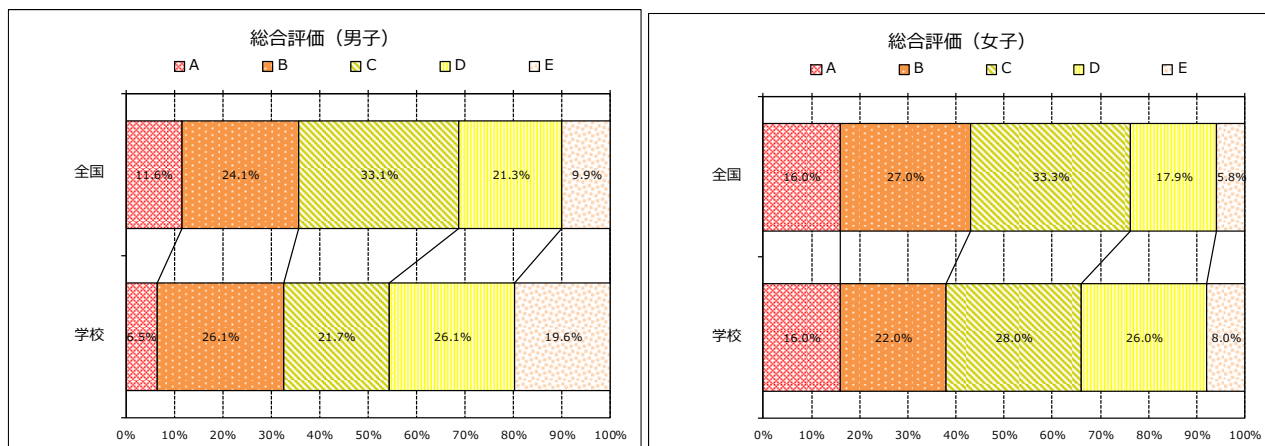
さらに、準備期間中、休み時間や放課後を利用し、高学年の一人一役の活動に全学年の教員がサポートに入っておりましたが、日常の教育活動を維持するために、各学年主任には学年経営の業務に専念してもらう必要があります。そのために、今年度から一層の重点化を図った結果、樽太鼓を行わないこととしました。ご理解とご協力をお願いいたします。

チャレンジ記録会は全面的に見直し、体力づくりにつながる新たな活動に取り組みます。

昨年度の保護者による学校評価で、「本校の教育活動等の中で、今後削減を検討してもよいと思う内容」の中で、PTAレクリエーション大会、水泳学習発表会に続いて回答が多かった行事です。今年度は、開校記念式・チャレンジ記録会が教育課程説明会の前に行われたため、例年通り実施いたしました。開校記念式の日に行うことで、PTA総会から教育課程説明会にかけての短い期間に、平日頻繁に保護者に来校していただかなくてはならなくなるのがやはり課題となりました。

また、今年度の学校評価に、「勉強だけでなく運動面の学習を取り入れることで学力向上と継続する力を養えるのではないか」といった体力向上に関するご意見をいただいておりますが、このチャレンジ記録会が、子ども達の体力づくりへの取り組みを後押しする学習として不十分ではないかという結果も出ております。本校では、毎年5年生が全国体力・運動能力・運動習慣等調査に参加しております。今年度の結果は下の帯グラフのとおりで、毎年、同じような傾向が続いております。

令和元年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果(男女の総合評価)



全国との比較を見ますと、総合評価では、ABの差が、男子-3.1%、女子-5%とあまり差がないのに対し、DEの差が、男子-14.5%、女子-10.3%と、全国と比較して体力

不足の子どもの割合が多いという状況にありました。このような実態を受け、ゆずりは学年では、今年度、宿泊学習に向けて継続的な体力づくりを行いました。保護者からは、「今年度宿泊学習の白鷹山登山にあたり、子ども達の話し合いの中から、朝グラウンドを走る時間を少しずつのばしていき体力をつけていくというのが、成長期の子ども達にとってとても身になり良かった」といったご意見をいただきました。

来年度以降は、チャレンジ記録会という形ではなく、「わくわく体力ウィーク」を設け、全学年で複数種目の体力測定を行い、自己記録の更新を目指します。そして、その結果を踏まえて課題となる体力を明らかにして、体力向上を目指してまいります。

各学年の学習表現活動は今年度同様、全校生が鑑賞するステージ発表は1・6年生を基本とし、2～5年生は生活科やタイムの学習成果を、発表対象や表現方法も決めて発表いたします。

「児童達が自分達で調べたことをプレゼンテーションしたのは、大変勉強になったと思う。ぜひ、プレゼンテーションの行事を継続してもらいたい」「今年よりフェスティバルがなくなって少しさみしさを感じていたが、タイムでの学習の発表を聞くことができ、ただ観るだけでなく、保護者も参加することができてとても良かった」「今回5年生はフェスティバルにかわってフォーラムという形での発表会だったが、高学年らしい発表会で良かったと思う」といった評価をいただいております。

これまで、全学年ステージ発表という形で学年フェスティバルを行い、保護者や他の学年のみのり班の仲間に多くの感動を与えてきました。そのためには、当該学年は発表に向けての準備、リハーサル、発表後の振り返り、そして他の学年は、フェスティバルの度に、鑑賞後に手紙を書き、教室に出向いて届ける等、多くの時間を費やす必要がありました。その結果、先に学習面で挙げた体験学習や探究型学習の時間が十分に確保できなくなるという課題もありました。そのため、今年度、カリキュラム・マネジメント検討チームを立ち上げ、生活科とタイムを軸とした体験学習、探究型の学習を充実させてきました。

教育課程説明会で教務から説明させていただいたとおり、各学年の学習表現活動は、発表時期や発表対象、発表方法等を明確にして、タイムや生活科で学んだことを、子ども達一人一人がしっかりと表現できるような活動にしていくことにしました。

来年度以降も、全校生が鑑賞するステージ発表は、1年生と6年生を基本とし、他の学年は生活科やタイムでの探究サイクル(課題把握、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)のまとめ・表現の部分を、伝えたい時期に、伝えたい相手に、伝えたい方法で発表させていただくことになりました。ご理解とご協力をお願いいたします。

前期の振り返り期間の3日間で個別面談を実施いたします。教育懇談資料配付を、カリキュラムやお子さんの育ちについて共有する機会にいたします。

「学校での面談は、とても有意義だと思う。子どもの学ぶ学校で先生と子どもについて話ができることで、子どもが学校でどのように過ごしているかがより実感できると思うので、是非継続していただきたい」といった評価をいただいております。今年度は、秋休み中の2日間で実施いたしました。来年度は、前期の振り返り期間として、秋休みを週明けに1日増やし3日間で個別面談を実施いたします。

さらに、ポートフォリオ形式の教育懇談資料をより一層充実させ、児童-保護者-教師の3者が、学年・学級カリキュラムとお子さんの成長についての双方向のやりとりを通して、理解を共有していくものとして位置づけてまいります。

そこで、前期の所見は、教師の見取りを文章で伝える形を改め、面談を通して、口頭で直接お子さんの学習や生活の様子やよさを伝えさせていただき、ご家庭での様子や保護者の方のお考えをお聞きしながら、共に今後に生かしていく形に改善させていただきます。

これにより、教育実習、みのりSF、前期のふりかえり等、さまざまな活動がある中でも、来年度から完全実施となる新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりを、さらに進めてまいります。

3. P T A活動について

レクリエーション大会は来年度までの実施とし、再来年度から新たな活動を導入するために具体的検討に入ります。

レクリエーション大会は、昨年度の保護者による学校評価で、「本校の教育活動等の中で、今後削減を検討してもよいと思う内容」の中で一番回答が多かった行事です。「球技が苦手な方からは敬遠されてしまうし、ある程度メンバーが固定してしまうのでは、みんなの為の大会としては機能していないと思う」「より作戦を皆で練ったり、差のつきにくい競技で、保護者の連携を高めたりしてはどうか」といった競技種目の変更を求める意見をいただいております。

また、「子どもを連れていけないとすると、出られる方、応援に行ける方も限られる」といった、事前の練習も含め、子どもを家に残しての参加にはどうしても抵抗を感じるといった意見や、「働いている母親が多い昨今、土曜日は家事をこなす日なのに行事があると大変になる。この土曜日にわざわざ親たちだけの親睦の行事を入れるのは、子どもにとって、また働く母親にとって困る点が多いのではないか」「P T Aの親ぶくを深めるため、という活動目的であるならば、同じ時間帯に親子でできるワークショップなど、子どもも含めた形での活動はできないか」といった、親中心、又、親のみ参加の活動の必要性に疑問を感じていたり、活動自体の見直しを求めたりする意見もいただいております。

この件について、2月10日（月）に、尾原会長をはじめとする各学年委員長の皆様にお集まりいただき、協議していただきました。「ぜひ続けたい」「伝統があるのでなくすには勇気がいる」という意見と「変えていった方がいいのではないか」「メンバーが固定することで学年の保護者の溝が深まるリスクがある」という意見をいただきました。その結果、レクリエーション大会は来年度は継続しつつ、授業参観や懇談会など同日開催の「親子ワークショップ」や「保護者研修会」等の新たな活動を1年間かけて検討し、令和3年度からの導入を目指していくことになりました。

役員選考は、より多くの保護者の方から協力していただける仕組みを、数年間かけて検討してまいります。

「6年間の中で一度はやるという制度にかえてほしい」「学年委員長さんなど一部の役員の方への負担が大きすぎるのではないか」など、同じ人で役員を継続するのは負担が大きいため、6

年間を通して、一人1回お願いする形式にしてはどうかといった、全員参加型のPTA活動が望ましいという意見をいただいております。このことに関しては、「他薦の投票用紙の他に、役員になってもいいという気持ちのある方が希望を書いたり、どうしても役員は出来ないという方以外全員が第一希望を書く等の自由記述欄のある用紙もあつたりするといいいのではないか。また、2年生以降、前年で役員をした方が次年度もしてもいいと考えている場合、その旨が書いてあれば、役員を選出する準備委員の方、学級委員長さんや先生方も助かるのではないか」といった具体的な提案もいただいております。

この件についても、2月10日(月)に、尾原会長をはじめとする各学年委員長の皆様にお集まりいただき、協議していただきました。その結果、保護者アンケートでいただいた意見を尊重し、より多くの保護者の方から協力していただける仕組みを、数年間かけて具体的に検討していくことになりました。

4. その他

「附小の子ども」として4つの誓いを大事にして学校生活を送れるよう家庭との連携を強化してまいります。

バスでの乗車マナーについては、「バスの中が騒がしかったり、手すりをつかんでいない子が停車の際に倒れてきたり、バスの運転手さんから注意されることが嫌だと言うことがある。引き続き、乗車マナーの指導をお願いしたい」「校内でのみのり班活動で、5・6年生はすごく立派に班をまとめていると感じる。しかし、学校を出るとその役割が終わりと考えてしまっているかもしれない。登下校時、バス待ち、バスの中でも、5・6年生を頼りにしていると伝えてもらいたい。卒業した中学生も気になっているようだ」といった課題をいただいております。また、「働き方改革の最中、先生方の負担を軽減させるためにも、保護者が責任を持って子どもを指導しなければならないと感じる。そのためにも、『4つの誓い』の総評であったような『マナー違反』が改善されない、もしくはあまりにも目に余る場合は、その保護者と連携を取り、指導改善する必要があるのではないか」といった励ましのご意見も頂戴しております。

生徒指導は「未然防止」と「初期対応」が大事です。問題を解決するためには、個別に丁寧に対応し、必要に応じて保護者とも連絡をとりながら粘り強く指導しなければなりません。保護者の皆様には、今後とも、制服を着て登下校する時間も含めて、「附小の子ども」として4つの誓いを大事にして学校生活を送れるようご理解とご協力をお願いいたします。